

大井川流域における水防のための伝統的方策を有する屋敷に関する調査研究
 -自然環境特性と水防のための屋敷形態の関係性について-

A study on the mansion of tradition way for prevention floods in OIGAWA

-About a relationship of mansion and natural environment properties form for prevention floods-

○横田憲寛¹, 青木秀史², 畔柳昭雄³, 坪井壺太郎⁴

*Norihiro Yokota¹, Hidefumi Aoki², Akio Kuroyanagi³, Sotaro Tsuboi⁴

Abstract: People have lived in the mansion form called FUNAGATAYASIKI/SANKAKUYASIKI since a flood happens in OIGAWA. The wisdom and consciousness which were cultivated through experience of a flood appear in this mansion, and leaving record is important. As a result, the flood happened in OIGAWA and many rivers were formed. Furthermore, many rivers were built when a flood happened. It turned out that the mansion in this area has turned the portion into which mansion form is sharp in the direction through which water flows. At the last, I thought that the mansion located at the place through which the complicated channel is flowing lived on changing the form of a mansion.

1. はじめに

大井川流域では、多発する洪水に対して伝統的に舟型屋敷・三角屋敷と呼ばれる水防に対応した屋敷(家屋が建つ敷地)形態を構成することで、地域における生活を営んできた。舟型屋敷・三角屋敷とは、洪水流方向(上流)に対して敷地形状が尖っている箇所を向けたり、屋敷周りに堀を設けることで洪水流を容易に流す屋敷形態を指すものである。

しかし、近年の都市化及び近代的な治水整備の進展により、水防に対応した屋敷形態の必要性が薄れ、減少傾向にある。このような屋敷には、洪水経験を通じて培われた住民の知恵や意識がそのまま表れており、消えゆく被災文化の歴史的な文化遺産を記録していく上で稀少性のある建築であると言える。

そこで本研究では、大井川流域における水防のための伝統的方策を有する屋敷に着目し、住居形態や空間構成のあり方について把握する。なお、本稿では実測調査の前段階として大井川流域に対するヒアリング調査、文献調査、現地踏査を踏まえ、大井川の自然環境特性と水防のための伝統的方策を有する屋敷形態の関係性について把握する。

2. 調査の概要

調査概要を Table 1, 舟型屋敷の概要及び現地踏査における舟型屋敷の写真を Figure 1 に示す。

本研究では、大井川流域における舟型屋敷・三角屋敷の存在を確認するために、流域に面する自治体の教育委員会と国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所に対して電話によるヒアリング調査を行った。

Table 1. Outline of study

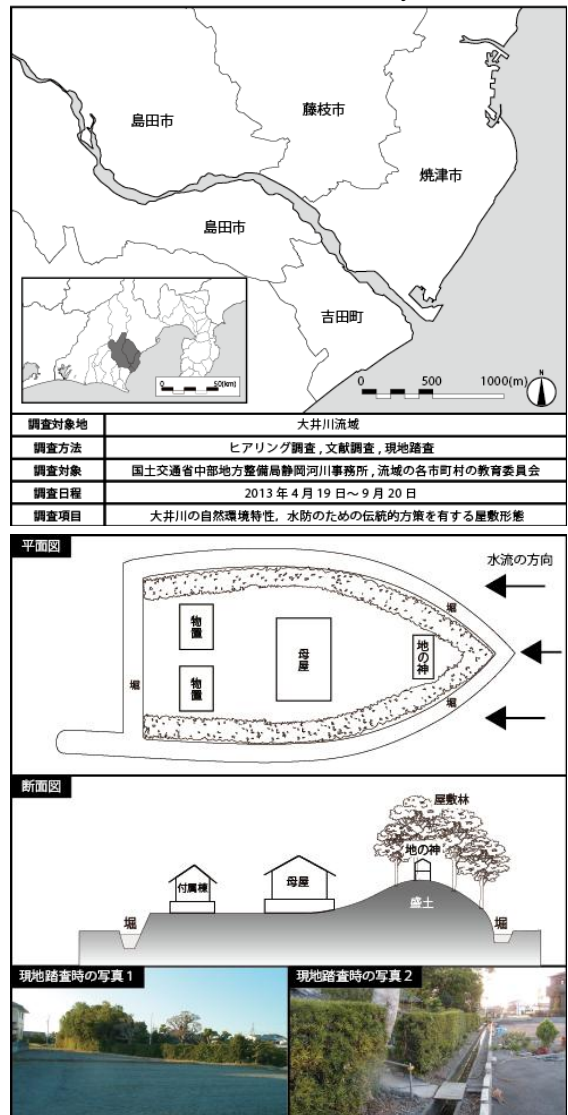


Figure 1. FUNAGATAYASIKI in the downstream site in OIGAWA

1 : 日大理工・学部・海建 Nihon-U.

2 : 日大理工・院 (前)・海建 Graduate School, Nihon-U.

3 : 日大理工・教員・海建 Prof, CST, Nihon-U., Dr. Eng

4 : 日大理工・教員・海建 Associate Prof, CST, Nihon-U., Ph. D.

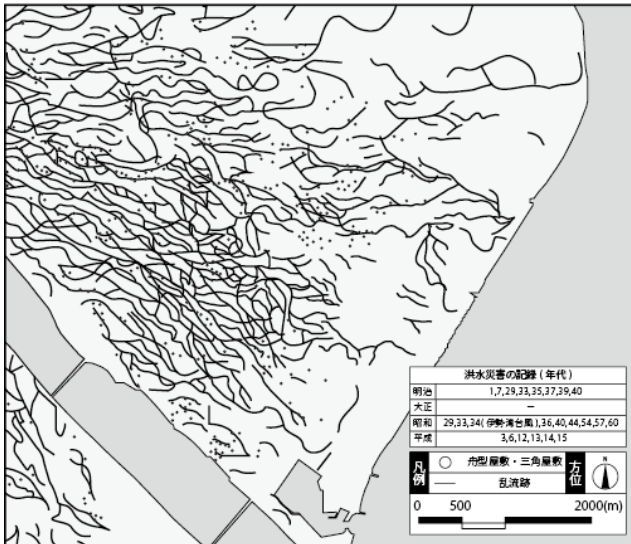


Figure 2. Channel and distribution situation

その結果、大井川下流域の1町3市において舟型屋敷・三角屋敷の存在が確認でき、調査対象地として選定した。さらに、1町3市においては文献調査を実施し市史・町史などの既往資料などから大井川下流域にみられる舟型屋敷・三角屋敷の形態について把握した。

3. 大井川下流域の自然環境特性

大井川(流路延長168km, 流域面積1280km²)は、流域延長に対する集水面積が極めて狭く、支流が少なく多雨地帯のため、溢れ出した水流で洪水被害が頻発する流域であった。また、河床勾配が急なため洪水流の流速が速く、それに伴い上流から多くの土砂が流入供給されることで下流域では扇状地が形成されてきた。そのため、多くの箇所でも洪水が発生し、それが下流へと流下し、網目状に流路が多数形成された。さらに、乱流跡に形成された自然堤防は屋敷を構えるための重要な場所となった。

4. 大井川下流域にみられる屋敷形態

大井川流域にみられる屋敷形態を Figure 3, 変形三角屋敷の概念平面図を Figure 4 に示す。

流域にある屋敷において、敷地形状が尖っている箇所には、「ボタ」と呼ばれる高い盛土がされている。この盛土には、「地の神」と呼ばれる水神が祀られており、屋敷を守ってもらおうという信仰心の強さが現れる。

屋敷の形態をみると、舟型屋敷や三角屋敷のような一方向が尖っているものや変形三角屋敷のような多方向が尖っているものがあることがわかった。これは、網目状の流路と屋敷の立地状況が関係しており、

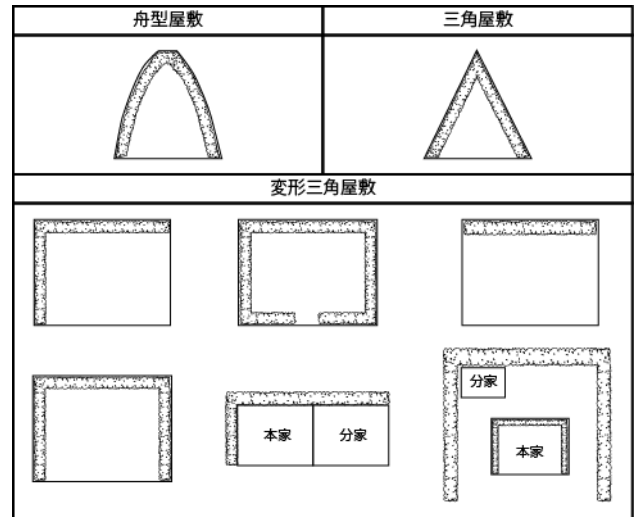


Figure 3. The form of a mansion



Figure 4. SANKAKUYASIKI of a residence

洪水流が多方向から流れる場所に立地している屋敷の場合、屋敷形態も洪水流の方向に合わせるように形を変化させたためであると考えられる。

5. おわりに

本研究では、大井川下流域の自然環境条件と屋敷形態の関係について捉えた。その結果、大井川下流域の網目状の流路が形成された扇状地に立地する屋敷では、複雑な流路に対応して屋敷形態も合わせて変化させて構えていることが考えられる。

6. 参考文献

- [1] 「静岡県史 資料編24 民俗二」, (株)ぎょうせい, 平成5年3月26日
- [2] 「流域をたどる歴史四 中部編」, (株)ぎょうせい, 昭和53年9月30日